

熊川宿

鯖街道

令和8年2月1日発行

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県三方上中郡若狭町熊川

TEL/FAX (0770) 62-0330

熊川宿ホームページ <https://kumagawa-juku.com>



つかの間の小春日和

～ 紅葉の熊川宿／令和7年11月24日撮影 ～

熊川宿のまちづくり近況

猛暑の長い夏が過ぎ、短い秋が山々を染め、今年も積雪の季節がやってきました。

江戸時代の面影が残る熊川宿が発見されて半世紀。熊川宿は二〇二六年、重伝建選定30周年の節目を迎えようとしています。

町並み保存からまちづくりへ、平成8年の重伝建選定を機に街道の整備などのハード事業と並行して、住民による多くの活動団体が設立され、ソフト面の活動が活発になりました。平成12年には町並み通信も創刊しました。さらに人材育成や防災活動、空き家の活用などに取り組んできました。時は流れ、重伝建選定30年目を迎えようとしている今日、雇用促進や交流人口の増加を目指して地域活性化のための事業が進められています。

さらに観光のみならず、仕事や芸術、文化、自然再生など多種多様な事業を展開し、この熊川宿で「働いて暮らし続けられるまちづくり」を目指して、移住・定住の促進、関係人口の増加、そして熊川宿ブランドの向上を目指した新たなまちづくりにチャレンジしています。

12月7日に開催された若狭町歴史環境講座「熊川宿の過去未来」では、まちづくりの近況や活性化事業の取り組みが紹介されました。(6P参照)

令和8年11月21日・22日には「全国町並み保存連盟の北陸・甲信越ブロックゼミ熊川宿大会」と「熊川宿重伝建選定30周年記念フォーラム」の開催を予定し、一年前から準備を進めています。

目次

熊川宿のまちづくり近況	1
全国伝建協議会総会・研修会	2
熊川いっぽく時代村実施報告	3
活動報告・NEWS・話題	4・5・6

第47回全国伝建協議会総会・研修会

伝建保存制度創設50周年記念シンポジウム

と き…令和7年7月3日(木)4日(金)
ところ…ホテルオークラ京都ほか(京都市)

1日目…記念講演「伝建地区の

50年、これまでとこれから」をテーマに、大阪市立住まいのミュージアム館長 増井正哉氏が、伝建制度の創設から選定後の変化、伝建地区が果たしてきた役割について

話され、具体例として今井町、奈良井宿、落合集落の特徴と組み込まれた考え方・手法・制度設計が紹介されました。最後にこれからの50年に向け、歴史遺産は活用すべき資源で、まちづくりや家づくりがモデルとして求められていることが述べられました。

◇ ◇ ◇

首長サミット「50年の成果と未来像」では、コーディネーターに京都大学大学院教授 中嶋節子氏、コメンテーターに増井正哉氏、仙



熊川宿関係の参加者



嵯峨鳥居本伝建地区視察

アトラクションは、中堂寺六斎会による六斎念仏の披露で、大迫力でした。その後の情報交換会では各地の行政やまちづくり団体の方々と交流しました。

北市・南木曾町・白川村・萩市・京都市の首長の皆さんが、今までの地域の諸課題や取り組んできたこと等について熱弁され、先行保存地区としてリーダーシップを発揮し、立派な活動をされてきたことがよく伝わりました。

◇ ◇ ◇

文化庁講評では、梅津調査官より「25年前から伝建地区が倍増で選定が進んだ。国の担当者は3名と少ないが市町村も少子高齢化で人材が不足、地元の住民の皆さんと国との間を埋めるのが伝建協の役割。なかでも50周年に向けて仙北市、塩尻市、高山市、萩市、日南市の皆さんに大変お世話になった。『移りゆく暮らし、変わらない町並み』が再現できているのがこれらの市町村。いい制度だし50年後もこのようなお話ができると良い」と締めくくられました。

◇ ◇ ◇

第48回 全国町並みゼミ 台北大会

会 期：2025年10月31日(金)～11月2日(日)
主会場：華山1914文化創意産業園區西一館
主催：台湾歴史資源經理学会
共催：全国町並み保存連盟

海外で初開催。熊川宿からは参加出来ませんでしたが、日本から134名を含む10ヵ国から300名が参加して開催されました。

全国町並み保存連盟の海外加盟団体「台湾歴史資源經理学会」の丘如華先生から西村幸夫先生経由の紹介で、7月10日に熊川宿へ来られた台湾の基隆市立暖暖高校の皆さんが熊川宿のことを発表してくれました。



(写真提供：暖暖高級中學 兼課教師 周巧怡氏)

2日目…現地視察では、嵯峨野の西北に位置する嵯峨鳥居本へ寄せていただきました。茅葺で農家風の建物と、つし二階・茅葺で町家風の建物が混在する歴史的景観がよく保存されているのを見させていただきました。

◇ ◇ ◇

伝建保存制度創設50周年記念シンポジウム(立命館大学朱雀キャンパス)では、都倉文化庁長官(今泉審議官代読)、森嶋立命館理事長の挨拶に続き、オープニングとして伝建地区制度の創設、住民の参画、先行地区における活動の特徴の紹介など、50年の振り返りと制度趣旨の説明がされました。基調講演は、國學院大學下間久美子氏から「伝建のこれからの50

年」をテーマとして、各地域の選定に向けての調査などを進める上で記憶に残る事項について解説いただきました。

続いて「住民プログラム」を兼ねて、先行保存地区から各地での活動などについて説明がありました。

◇ ◇ ◇

今回の総会・研修会およびシンポジウムを通じて、伝建保存地区制度50年の歩みを振り返るとともに、先行5地区の保存と活用、そして次の世代へと継承していくための課題や展望について、行政と住民の両面から知ることができ、学びと刺激を受ける機会となりました。(報告…宮本哲男)

熊川 いっぷく 時代村

と き：令和7年

10月5日

ところ：鯖街道 熊川宿

(福井県三方上中郡若狭町熊川)

主催：熊川区・熊川いっぷく時代村実行委員会

協賛：熊川宿観光組合・わかさ東商工会熊川支部

後援：若狭町・福井新聞社・NHK福井放送局・

FBC・福井テレビ・FM-FUKUI・

チャンネルO・MMネット・

きんでん・クスタニ・リョウセイ共同企業体

司会：曾我廻家 福輔

熊川いっぷく時代村 実施報告

熊川宿若狭芸術祭2025コラボ企画として次のイベントを行いました。

第2会場にて、バンド演奏、書道パフォーマンス、熊川の祭り囃子披露、ちんどん屋、和太鼓演奏。ブリキの金魚レースでは、ガラス工芸作家による盾やストラップを制作し、上位入賞者に贈呈しました。

その他、駕籠屋、江戸館細工、お菓子まき、バルーンアート、射的・縁日遊び、Eスポーツを実施し、第2会場にフードコートを設けました。

あいにくの雨模様でしたが、多くのお客様にお越しいただきました。



熊川宿若狭芸術祭2025 コラボイベント



熊川の祭り囃子披露

江戸時代から伝わる白石神社祭礼の祭り囃子。

子どもを中心とした鉦・青年を主にした笛・太鼓による囃子が伝承され、毎年5月3日に山車の巡行とともに囃子の奉納が行われています。



ブリキの金魚レース (2レース実施)

優勝～3位は賞金・賞状・副賞のお米、加えて、優勝・準優勝はガラス細工の盾、4位～10位は賞金を贈呈しました。



書道パフォーマンス (若狭高校書道部)



和太鼓演奏 (立命館大学 和太鼓ドン)



ちんどん屋



バンド演奏



子ども語り部



お菓子まき



射的・縁日遊び

令和7年7月

8/5 若狭町伝建保存審議会

(若狭町)



令和7年度事業で土蔵の修理、主屋の新築の2件、8年度事業計画で主屋の新築1件、土蔵の修理1件、並びに老朽家屋の現地調査と審議が行われました。下ノ町の老朽伝建物の扱いについては継続して検討することになりました。

8/7 盆踊り練習会

(熊川宿伝統芸能保存会)



伝統芸能に関心を持つてもらうと、盆踊りを前に練習会が開かれ、家族連れなど十数人が集まりました。アンパンマン音頭で始まり、アップテンポのダンシングヒーローやコスモス、お馴染みの炭坑節やさくら音頭、ローカルな上中音頭、熊川音頭と続き、楽しく踊り方を確認しました。

8/10 かわたの花器を作ろう！

(熊川宿まちづくり特別委員会)



令和6年度の日本風景街道近畿優秀活動賞の副賞として戴ける活動助成金を活用して、熊川宿ならではの花器を制作し、街道と前川の美化に取り組むこととしました。

子どもたちを中心に自由な発想で粘土をこねて色々な形の花器が出来ました。

焼成(焼き)は陶芸のお店「若州窯」で行っていただき、植栽をして前川のかわたに飾りました。

8/11 12 WAKASAアートキャンプ

(熊川宿若狭芸術祭2025関連イベント)



障がいの有無、国籍、世代等に関わらず、アートの視点から多様性を認め合う共生社会の実現を目指す「みんながアートでつながるプロジェクト」の一環として、県内外のアーティスト等と交流しながらアートを通じてつながることのできるアートキャンプが開催されました。

短期大学、若狭高校の学生さん16名と指導スタッフ5名が熊川宿で創作活動をされました。各チームの皆さんはそれぞれ新たな発想で楽しい企画をまとめ発表されました。

8/14 15 街かど陶の灯り展と盆踊り

(熊川区・熊川宿陶の灯りの会・熊川宿伝統芸能保存会)



福井ふるさと百景推進事業の一環として、穴の空いた陶器にローソクを入れた陶の灯りを制作し飾ったのが始まりで、ホタル観賞会や納涼盆踊りに自作自慢の作品を街道に並べ、夜の熊川宿を幻想的に演出し好評を得ています。今年よりモコンで操作できるLEDを新調し、色の変化を楽しんでもらいました。

納涼盆踊りは、暑い日でしたが雨の心配もなく、大正時代から伝わる熊川音頭をはじめ、流行踊り、バザーに多くの区民が集まりました。ダンシングヒーローやコスモス等にもチャレンジし、練習した甲斐あって盛り上がった盆踊りとなりました。

お楽しみ抽選会も好評で、久しぶりの帰省客や家族連れが様々な景品をゲットしていました。

8/23 熊川宿若狭芸術祭・交流会

(熊川宿若狭芸術祭2025)



熊川宿若狭美術館でアーティストの皆さんが創作にける思いなどを自由に語るオーブンゲートークが開催され、多くの方が参加されました。

交流会では、8名のアーティストの自己紹介、まちづくり特別委員会宮本会長から開催の御礼、各団体や事業主の皆さんの紹介があり、和やかに行われました。

8/24 水辺の小さな自然再生

(熊川宿まちづくり特別委員会対応)



午前中、全体の座学と、蜚が陸に上がりやすいようにするためのバンプ工の設置、河内川中条橋下の堰堤の計測、モクズガニが堰堤を登りやすくするための縄の設置を行いました。午後は、北川の源流となる天増川へ移動し、バンプ工を設置しました。

8/31 鉄扇踊り研修

(京都一乗寺 八大神社の八朔祭)



天候にも恵まれ、夜の8時から八朔祭(お千度)が行われ、直会の後、境内で鉄扇音頭が奉納されました。曲目は練習でもお馴染みの「吾妻みやげ」で、全曲約20分を踊りやすいテンポで唄われました。

一乗寺郷土芸能保存会も世代交代が進みつつあることを感じました。



9/18

春江町民生児童委員協議会

(熊川宿まちづくり特別委員会対応)

熊川宿のまちづくりや自主防災の活動事例が役立つとのことから、協議会の皆さんの推薦で、再びお越しいただきました。

熊川宿の発見から重伝建選定、現在に至るまちづくり、自主防災活動、人材育成について説明し、関心を持ってお聞きいただきました。



9/11

滋賀県政策立案研修

(熊川宿まちづくり特別委員会対応)

滋賀県と福井県の若手職員の皆さんが、住民主体の地域づくりをテーマに、政策立案手法や知識の習得、現地視察を通じて地域課題の明確化や課題解決の検討を目的に研修されました。宿場館を見学の後、まちづくり委員会や(株)デキタへのインタビュー、概要説明、意見交換が行われました。



9/6

西村幸夫町並み塾

(小浜旭座)

ゲストは(一社)シモツケクリエティブ代表理事の山口貴明さん。「思い出をデザインするということ」と題して地域づくりの実例や地域デザインについて拝聴し、城跡で何ができるかのヒントをいただきました。熊川宿から伝建選定への経緯や近々の活動報告もさせていただきました。



9/20

花器に寄せ植え

(熊川宿まちづくり特別委員会)

近畿風景街道優秀活動賞の助成で、8月10日に若州窯で制作した花器が焼き上がり、石倉氏・中村氏を講師にお招きして小菊とモミジの植栽を行いました。宿場館前に一斉に展示し、その後、熊川いっぽく時代村に合わせて、製作者付近の「かわと」に飾っていただきました。

8/21
~10/6

臨場展・ミニコンサート

(熊川宿若狭芸術祭2025)

臨場展は、10日間の公開制作により完成した作品が期間中、展示されました。

9月20日には、熊川宿若狭美術館で、近藤薫と仲間たちによるミニコンサートが開催されました。パレア若狭での公演を前に開催されたもので、目の前で迫力ある生演奏を堪能しました。



9/19

大阪府高齢者大学

(熊川宿まちづくり特別委員会対応)

シニア世代を対象に社会で活躍できる多種多様な講座を開設されている大阪府高齢者大学講座ローカル文化探検科に寄せていただき、「宿場町の暮らしと文化」をテーマに「熊川宿のまちづくり・ひとづくり・自主防災活動・空き家対策・新たなまちづくり」について講演しました。

10/11
~11/16

東極の磁場 in WAKASA

(熊川宿若狭芸術祭2025)

熊川宿若狭芸術祭の一環で、「東極」の磁場オープニングイベントが開かれ、松木神社義民館を出発し、下ノ町、中ノ町で混沌の首「練り歩きパフォーマンス」が行われ、迫力ある現代の踊り念仏披露を楽しませていただきました。

その後、基調講演、ギャラリートーク、パフォーマンスなどが行われました。



10/9

文化庁調査官との意見交換会

(小浜旭座)

今庄宿、小浜西組、熊川宿と、福井県の今出調査員から情報提供がありました。熊川宿からは最新の新しい取組みについて話しました。

文化庁 高橋調査官からは、文化庁行政並びに伝建制度50周年記念シンポジウムの概要、全国の伝建地区の現状報告がありました。



10/8

文化庁調査官現地指導

(若狭町・熊川宿まちづくり特別委員会)

文化庁の高橋調査官は、3日間で県内の3伝建地区を視察に回られ、この日は熊川宿へお見えになりました。

令和7年度の修理物件、8年度の修理並びに新築修景物件の指導、そして老朽物件の扱いなどについて現地指導を受けました。

10/25
26

越前若狭お城フェス

(若狭町・熊川宿まちづくり特別委員会対応)

JR東小浜駅やJA福井県小浜支店等を会場に開催され、雨にもかかわらず多くの来場者がありました。

全国お城ブースへ熊川宿からも出店し、「御食国若狭と鯖街道」の日本遺産プレミアム選定を記念して、若狭和紙で製作した「熊川城御城印」等を販売しました。



10/23

水辺の小さな自然再生

(熊川宿まちづくり特別委員会対応)

今回は安田龍司先生のご指導のもと、10人ほどで、河内川支流の明神谷でヤマメの産卵床の整備をしました。

ヤマメが産卵しやすいように、小石が溜まっている場所を作る作業です。

12月15日にはこの産卵床と、5月に造成した天増川にヤマメの発眼卵を放流しました。



10/20

滋賀県政策立案発表

(熊川宿まちづくり特別委員会対応)

9月11日に行われたワールドワークや研修を経て、3つの班がグループ別にまとめられた政策についてオンラインで発表がありました。

発表を終えて、指導講師の京都府立大学公共政策学部川藤教授から、研修で得たことを活かすことや参画の意義などを総括されました。



12/2

妻籠宿から視察・交流会

(若狭町・熊川宿まちづくり特別委員会)

南木曾町町長はじめ行政や妻籠を愛する会、観光関係の皆様が来訪され、熊川宿を視察されました。

町並み保存の概要や空き家対策、まちづくりの近況、アドベンチャーツーリズムの拠点整備などの説明のあと、山座熊川を視察いただきました。

交流会では質疑応答を交え、藤原理事長からインバウンドの傾向やレンタカー利用について説明があり興味深くお聞きしました。

10/31
~11/2

「景色のかけら」

(熊川宿若狭芸術祭2025関連イベント)

若狭和紙と光の仕組みを活用したアートイベントを開催。武蔵野美術大学、仁愛女子短大、若狭高校の有志との共同プロジェクトとして立案・制作・運営が行われました。

「独自の視点で見出した熊川宿」をテーマに、和紙に映り込む熊川宿の風景が作品になりました。



10/26

倉見屋荻野家お掃除大作戦

(若狭町・荻野家応援団)

12月の特別公開に備えて、重文倉見屋荻野家住宅のお掃除大作戦が行われました。

あいにくの雨模様でしたが、8人で、中庭、荷蔵への通り庭、裏道を中心に草刈りを行い綺麗になりました。



12/10

歴史街道勉強会

(熊川宿まちづくり特別委員会対応)

経済界、行政、民間企業で組織する「歴史街道推進協議会」の皆さんが会員相互の情報交換やノウハウの共有を目的に視察研修にいられました。

一行は、滋賀県高島市新旭町の生水の郷と熊川宿を見学され、まちづくり全般について研修されました。アンケートで高評価もいただきました。



備と活用についても話題提供がありました。

熊川宿と山座熊川を使ったゲームや自然再生、山林の整備

12/7

若狭町歴史環境講座

主催…若狭町歴史文化課
共催…熊川区・若狭熊川宿まちづくり特別委員会
協賛…関西電力

12/5
~7

マダミス「道饗に轟く」

(熊川宿まちづくり特別委員会対応)

3月、6月に続き、2公演が実施され、チケット発売開始からわずか10分で完売する人気ぶり。2日目は快晴に恵まれ、若い方から「楽しかった」のお声をたくさんいただきました。